



# 全国を巡回する 安曇川町田中出土の馬具

発掘調査は、日本各地で毎年約1万件近く行われ、日々新たな発見の報告がされています。このうち特に注目された最新の発掘資料が、文化庁主催による速報展「発掘された日本列島2011」に集められ、6月からの江戸東京博物館を皮切りに来年2月まで、全国5か所の博物館を巡回し展示されます。



このたび、高島市安曇川町田中に所在する田中36号墳から出土した馬具などが展示されることになり、全国の皆さんに紹介することとなりました。

田中36号墳は、安曇川地域西部に広がる泰山寺野台地の東端にある田中古墳群のなかのひとつです。近くには、直径約58mの田中王塚古墳（継体天皇の父「彦主人王」陵墓参考地）もあります。田中36号墳は平成19年に発掘が行われ、九州地方の横穴式石室の特徴をもっている埋葬施設が見つかり、九州地域との関連性が考えられています（詳細は「広報たかしまNo.56号」をご覧ください）。

ここでは、今回の「日本列島展2011」に展示される田中36号墳出土の馬具について、詳しく紹介します。

展示される馬具は、人が馬を操るために装着させる道具で、4世紀頃に朝鮮半島から馬と共に伝わってきたものです。軍事や行事などに欠くことのできない大切なものとして、6世紀になると大きな権力をもつ首長や有力者は、その権威付けとして多くの馬と、よ

り優美な馬具を所有するようになります。

田中36号墳の馬具は、鐘形鏡板かねがたがみいたと響かと呼ばれる、馬の口に取り付ける轡くわのなかで特に装飾が豊かなものです。薄い鉄板に銅板を張り、金メッキを施す技法で造られ、金色に輝く乗馬用の金具です。実物はサびてしまっていますが、一部に金箔が残ります。

これら金銅製の馬具は、畿内の



田中 36 号墳出土の馬具

大和政権のもとで製造され、地方の有力者に配られたものと考えられています。この鏡板は他に類例のない珍しい形のもですが、この馬具を所有した人物は、畿内の大和政権や九州地域とのかわりを持ちながら、高島・安曇川地域の首長として巧みな乗馬で兵士を統率し、この地域を支配していたのではないのでしょうか。

『発掘された日本列島展 2011』は、以下の会場を巡回します。

- ・6月11日～7月31日 江戸東京博物館
- ・8月9日～9月11日 新潟市歴史博物館
- ・9月23日～10月30日 静岡市立登呂博物館
- ・11月15日～12月18日 九州歴史資料館
- ・平成24年1月2日～2月14日 高知県立歴史民俗資料館

(文化財課)

### 編集者のつぶやき

表紙は、マキノ西小で開催された、元全日本バレーボール選手江藤直美さんによる特別授業のようすです。遊びを取り入れた練習を楽しみながら取り組む子どもたち。はじける笑顔に元気をもらいました。

今回の特集は、子育てについて。市で行っている支援サービスを紹介していますので、ご活用ください。私は現在初めての子育てに奮闘中です。楽しみながら子育てできるとよいですね。(広報担当S)